

令和2年度 新島村農業委員会だより第3号

新島特産「あめりか芋」

農業委員 職務代理 岩永和徳

今年、外場所の畑が整地され、芋が植えられています。生産者の宮原さんによると約1,700本の「アメリカ芋」を植え、目標の収穫量は約1トン(1,000キロ)だそうです。

ところで、昔から新島で栽培されている芋をなぜ「アメリカ芋」と言うのかご存知ですか？ 今回、私の知っている範囲で説明いたします。

明治29年、広島県広島市出身の久保田勇次郎・弟吉松2人で、カナダを経て米国に渡航し、サンフランシスコの近くにある葡萄畑で除草等の労働に従事しました。その葡萄畑はベール氏というイタリア人が栽培する畑で、米国に移住して62年目となる農家でした。住まいの裏の畑で「芋」が栽培されており、米国人は甘い芋なので「シュガーポテト」と呼び、畑の主人ベール氏は「イタリアポテト」と呼んでいました。久保田勇次郎が、この「芋」を食べたところ美味であり、耐久力もあることを知り、ぜひ日本に持って帰りたいと考えていました。

2人は3年間働き、明治32年秋日本に帰ることになり、この「芋」を日本にお土産に持って帰りたいとベール氏にお願いしたところ「好きなだけ持ってお帰り」と言われましたが、荷物になるため種芋2個だけ持ち帰りました。

広島に戻った勇次郎は、この芋を米国から持ってきたので「アメリカ芋」と呼んだそうです。新島にアメリカ芋を誰が、いつごろ持ち込んだかは不明です。ただし、今の90代のお年寄りがもの心ついたころには、芋と言えば「アメリカ芋」だったそうです。よって、大正時代に持ち込まれたのではと推測できます。

その後、久保田勇次郎は、栽培に注意しながら大事に育て、収穫した芋を日本名「七福芋」と命名し、近県に伝えていきました。

そこで、なぜ「七福芋」と命名したのか？それは、この芋が

- ①どんな風土にも適している
- ②作り易く不作がない
- ③貯蔵に耐えている
- ④美味で常食や料理用に好適
- ⑤イタリア
- ⑥アメリカ
- ⑦日本と順次に渡った。

と言うことで命名したそうです。

大正14年、農商務省（現農林水産省）は「七福芋」の名を正式の名称と決めました。

▶ 収穫された「あめりか芋」



▶ 宮原さんの畑



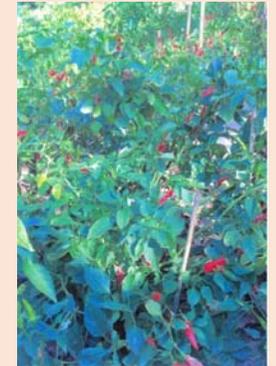
山林だった所を5年前に開墾しはじめ、やっと畑らしい風景になりました。昨年台風がやられてしまい、復旧が大変でしたが、今年は台風もなく、ハウスも大丈夫で、冬のトマトに挑戦しています。

皇帝ダリア、百日草、菊も咲いています。毎日朝一番で見に行くのが楽しみです。相変わらず多種他品目で農業を楽しんでいます。

農地利用最適化推進委員 池村達子



▲大根が育っているようす



▲たくさんなっているトウガラシ

多種他品目の農業

ダメ！！不法投棄！！

農地パトロールの際に発見する「農地への不法投棄」。空き缶や、ペットボトル、金属、中には産業廃棄物や車などの大きなものも見受けられます。こういったゴミは何年たっても土に返ることはなく、その後の土や作物に影響を与え、それを口にする人体にも悪影響を及ぼします。つまり、畑として利用するのに、永久的で致命的な障害となります。

将来、畑を相続した方が買いたい、売りたいといった希望があっても、過去の不法投棄による埋設物などによって、買値も売値も下がります。困ってしまっているのに、なかなかないのです。他人の農地へはもちろん、ご自身の所有の農地においても、ゴミの投棄は決して行わないでください。

廃車を倉庫代わりに自分の畑に置いておく、おっしゃる方もいますが、動かぬ車はそのうち「ゴミ」となってしまう。古くなった車は決められた方法で処分をお願いいたします。

また、例え伐採枝や雑草であっても、他人の所有する農地に勝手に投棄してはいけません。農地を汚せば、他のゴミ投棄を招くことになります。

不法投棄は犯罪です。ゴミや伐採枝、抜いた草などは、必ず決められた場所に捨てるようお願いいたします。

新しい生活様式

新型コロナウイルスの感染拡大により人々の生活にも大きな影響を与え、新しい生活様式が定着しつつあります。外出を控えスーパー等へ買い物に出かける人が減り、インターネットを利用して生活用品を買うひとがさらに増えているそうです。

なかでも生鮮食品のネット通販市場が飛躍的に伸びているといます。当初ネット通販市場での生鮮食品販売は苦戦していましたが、おうち時間が増えていくなかで販売を伸ばしているようです。

新島農協でも楽天市場・BASE等インターネット上で野菜などの販売を開始していて、商品数も徐々に増えてきています。

買い物をする人達の意識・行動が変わったのであれば、売側の意識もそれに合わせて変わっていく必要があるのではないかと思います。島の野菜・魅力を世界中に発信できるチャンスと捉えることができるのではないのでしょうか。

この先どのような状況になるのかまったくわかりませんが、柔軟に対応できる気持ち・体制でいる事が大切であると思います。

農業委員 大沼 剛



◀新島村農協の通販サイト

「しまたま」のブランド化

平成26年に本業である建設業の閑散期に考えた農業への参画でしたが、妻が思いの外のめり込み、6年経った今では代表を妻に変更し、現在に至っています。

自然由来の物にこだわり農作物を作っています。永年放置されていた先代の畑を開墾し、開墾時に出た伐採木等をチップ化して新島の焼酎を作る時に排出される廃液と米ぬかを攪拌し発酵させ「バーク堆肥」を生産し畑に還元し、また農作物を作り焼酎を作るといった自然リサイクルを実施しています。作物はトマト、あめりか芋、バジル、ルッコラ等です。

2~3年前から東京マンゴーを目指し、マンゴー栽培しておりましたがもう少しで収穫といった所、昨年の台風でハウスごと飛ばされてしまいました。それでもめげずに新しい苗を購入し栽培しています。

砂地で作る玉ネギの美味さに驚き、今年は2万本を超える苗を定植し、島で取れた玉ネギと言う事でブランド名を「しまたま」と名付けました。今後、島内外に販売して行けたらと思っています。

農業委員 内藤 政之



◀にいじまファーマーズの畑

▼「しまたま」のブランドロゴ



有害鳥獣の今

私は有害鳥獣対策に従事しており、各従事者が担当する地域は向山、平地、宮塚山、若郷の4か所に分かれています。私の担当は宮塚山になります。

また、4か所の担当地の他に向山の山奥、宮塚山の山奥、新島山の山奥、渡浮根の山奥の4か所を月に一度見回りをしています。

従事者となって2年が過ぎましたが、その間にも各山奥の罾は増設されています。向山では丹後西側に18基、宮塚山ではテレビ塔南側に15基、そして新島山の山奥には8基を増設しています。各山奥への罾の増設は、自分たちで必要な量の機材を設置個所まで運ばなければならず、非常に大変です。

今年度は、昨年度と比較すると10月20日までの捕獲頭数で山奥が他の地区に比べて多くなっています。昨年度は若郷地区が一番多く、10月までで53頭。今年度は山奥が一番多く、52頭です。ちなみに若郷地区は今年度28頭と捕獲頭数が半減してしまいました。

写真は宮塚山の山奥です。この範囲内に47基の鹿罾が設置してあります。

昨年の令和元年度台風による各所の罾も損傷を受け、なかなかその修繕も終わっていませんが、少しずつ復旧させています。

各地の農地でも、いまだに鹿の足跡を発見したと情報が入ります。自分の畑や知人の畑で足跡や姿を見たなどの情報がありましたら、役場産業観光課農林係までご連絡をお願いいたします。

農地利用最適化推進委員 前田 亙



▲宮塚山の山奥

【新島村農業委員会からのお知らせ】

★畑を相続された時は…

法律の改正により、畑を相続された時は、農業委員会への届け出を行う必要があります。

相続登記後に農業委員会へ「登記事項証明書」のコピーを1部お持ちください。簡単なお手続き(申請書1枚)で農業委員会の届出を行うことができます。

届出を行っていたら、例えば相続した方が島を離れていて、自分では手入れが出来ない場合に、農地の管理についての相談や、島で借り手を探すなどのお手伝いをすることができます。

★畑を貸したい・借りたい時は…

畑を貸したい方で、すでに貸す相手が決まっている方は、農地法による貸借の許可申請が必要です。

貸す相手が決まっていないが、畑を貸しても良いという方は、農業委員会までお気軽にご相談ください。

新島式根島で畑を借りたいという方もお気軽にご相談ください。

★畑を誰かに譲る時は…

所有の畑を誰かに譲る時にも農業委員会の許可が必要になります。

所定の申請書に必要な書類を添付の上、ご提出ください。詳しい申請方法については、農業委員会までお問い合わせください。

★畑を他の用途で使いたい時は…

畑を宅地にして家を建てたいなど、畑を別の用途で利用したい時も農業委員会の許可が必要です。「農地転用」といいます。

農地転用は、畑や用途などによって許可できることや、できないところがありますので、まずは農業委員会までご相談ください。

【問い合わせ・相談先】

新島村農業委員会事務局
(産業観光課 農林係内)

電話 (5)02694

メールアドレス

nousei@nijima.com
ファックス (5)1304